仲西小 後半逆転V

ハンドおきぷら杯

ハンドボールの第4回おきぷら杯争奪第31回県小学生大会兼全国小学生大会県予選（主催・県ハンドボール協会、共催・沖縄タイムス社、協賛・沖縄プラント工業）最終日は29日、八重瀬町東風平運動公園体育館で各パート決勝までを行った。Aパート男子は、神森が17―15でコザJrを下し、3年連続11度目の優勝を果たした。同女子は、仲西が13―10で浦城を破り、5年ぶり2度目の栄冠に輝いた。Bパート男子は八重瀬が制した。Aパート優勝の2チームは全国大会（京都府・8月1日開幕）に推薦される。

女子決勝　仲西―浦城　前半、右サイドからシュートを放つ仲西の照屋ひらり＝東風平運動公園体育館（磯野直撮影）

開始5分 連続ゴール

女子仲西は浦城の堅い守りにペースをつかめず、前半を4―6で折り返した。ハーフタイム、儀間祐貴監督は敗戦ムードの選手たちに「勝負は後半。前半プレーで感じたことを、後半で生かせ」とハッパを掛け、ベンチを送り出した。

後半開始早々、上原まひろが中央からシュートを決めると、浦城の守備陣が前半よりも下がった。そこからロングシュートが決まり始め、勢いが加速した。

5分すぎに3連続得点で逆転すると、反撃に出る浦城をセンターライン付近でブロック。照屋ひらりの右サイドからのシュートが要所でゴールネットを揺らし、優勝を決定づけた。

4得点の照屋は「前半は何度も阻まれたけれど、後半は浦城の守備が引いたため、攻めやすくなった。あきらめなくてよかった」と会心の笑顔。逆転勝利に主将の仲西美優は「言葉にできないぐらいうれしい」と涙をぬぐった。

5年前、全国8強を成し遂げた仲西。先輩を超えるため、仲西主将は「体育館の窓を閉め切って走り込む。体力をつけて頂点を狙う」と力を込めた。

（磯野直）

男子神森3連覇

動じず堅守速攻

3連覇を狙う神森の決勝の相手は、5月のオムロンカップで九州制覇したコザJr.。神森を指導する翁長誠光さんは「初対戦だから、どんなチームか分からない。自分たちのハンドボールをすればいい」と、選手たちを送り出した。

神森のハンドは「守って速攻」一筋。開始早々、コザの山城貞智に先制されたが、すぐに伊禮颯雅（そあ）、仲程陸が決め、リードを奪い返した。要所でキーパー西原雄聖が好セーブを連発。パスワークでスペースをつくり、颯雅が5得点、兄で主将の雅太（うた）が6得点を挙げ、粘るコザを振り切った。

雅太主将は「コザは強かったが、持ち味の『守って速攻』ができてよかった」と満足げな表情。「昨年は全国3位。もう優勝しかない。シュートミスをなくし、当たり負けない守備で臨みたい」と語った。全国初出場になる颯雅は「シュートをたくさん決めたい」と意気込んだ。

男子決勝　神森―コザＪｒ　後半、神森の伊禮雅太がディフェンスをかわしてシュートを決める（勝浦大輔撮影）

【男子】

▽Aパート決勝トーナメント準々決勝

内間 26（13―3、13―2）5 屋部
神森 23（12―8、11―4）12 古堅
八重瀬 22（13―5、9―9）14 当山
コザJr 19（11―6、8―9）15 宮城

▽同準決勝

神森 20（14―7、6―8）15 内間
コザJr 16（4―7、12―6）13 八重瀬

▽同決勝

神森 17（7―7、10―8）15 コザJr

▽Bパート決勝トーナメント準決勝

八重瀬 18（12―5、6―7）12 コザ
沢岻 10（5―5、5―4）9 HC宜野湾

▽同決勝

八重瀬 13（3―7、10―1）8 沢岻

【女子】

▽Aパート決勝トーナメント準々決勝

仲西 23（11―5、12―6）11 当山
八重瀬 11（5―3、6―2）5 浦添
神森 14（7―4、7―3）7 コザJr
浦城 15（7―9、8―2）11 内間

▽同準決勝

仲西 22（10―4、12―2）6 八重瀬
浦城 16（8―5、8―5）10 神森

▽同決勝

仲西 13（9―4、4―6）10 浦城